

Vol. 82
2024.

3

 **HAGIWARA** TIMES

大津漁港外1港航路・泊地浚渫工事／帯広大谷高等学校校舎改築及び改修工事



●大津漁港 -4.5m航路(補修)浚渫状況
【第3石狩号/5m3級バックホウ】



●十勝港 航路(-14m)(-13m)浚渫状況
【ビッグブルー/30m3級グラブ浚渫船】

大津漁港外1港航路・泊地浚渫工事



●大津漁港 -3.0m泊地(補修)浚渫状況
【一栄号/3m3級バックホウ】



●十勝港 泊地(-2m)浚渫状況
【一栄号/3m3級バックホウ】



●大津漁港 -3.5m泊地(補修) 消波ブロック撤去・床掘状況
【一栄号/第3石狩号】



●大津漁港 固化処理状況

- 工事名 : 大津漁港外1港航路・泊地浚渫工事
- 発注者 : 北海道開発局 釧路開発建設部
- 施工業者 : 萩原建設工業株式会社
- 施工場所 : 大津漁港・十勝港
- 進捗率 : 67.4%(令和6年1月末)
- 施工期間 : 令和5年4月27日～令和6年3月22日

土木

本工事は大津漁港と十勝港で施工箇所が点在しており、海上での浚渫が主な作業となります。漁業活動期間中は陸上で、浚渫土砂堆積場の土砂運搬・固化処理を行い、本年度の浚渫土砂を堆積できるようにします。海上作業は施工期間に制約があり、大津漁港の浚渫期間は12月～2月末、十勝港の浚渫期間は6月および1月～2月末の厳冬期・海象状況が厳しい時期に作業を行います。

工期内に浚渫を完了するために、水中掘削状況を可視化できるICT(3次元データ)を活用しています。これにより、日々の施工履歴を記録し、浚渫手順の打合せや数量・工程管理に反映させ、効率良く手戻りなく施工が進行します。また浚渫時は港内の船舶運航、浚渫土砂の揚土・運搬により重機の稼働が多くなるため、地域住民・漁業関係者との綿密な打合せと周知が不可欠となります。気候・海象状況の配慮や、海上作業による災害、重機関連の災害がないよう安全第一で工事を遂行し、完成を目指します。

現場代理人:中川 貴大/監理技術者:佐々木 修/担当技術者:下鳥 智明・塩谷 新太



●新校舎外観

帯広大谷高等学校校舎改築及び改修工事



●閲覧スペース



●体育館



●教室



●階段ホール

- 工事名 : 帯広大谷高等学校校舎改築及び改修工事
- 発注者 : 学校法人 帯広大谷学園
- 施工業者 : 萩原建設工業株式会社
- 進捗率 : 77.5%
- 施工場所 : 帯広市西19条南4丁目35番1号
- 設計・監理 : 日建・創造設計舎共同企業体
- 施工期間 : 令和4年6月20日～令和7年10月31日

本工事は大きく「帯広大谷高等学校の新校舎建設」、「既存の教室棟改修」、「旧校舎解体」の3つに分かれます。既に新校舎は1月31日に引渡しを行いました。

この新校舎の設計コンセプトは「出会いと学びの環」です。平面形状が楕円に近い形をしていて、建物の中心にある体育館を各部屋が囲む特徴的なデザインとなっており、行き止まりのない回遊動線につながる、互いの顔が見える校舎となっています。校舎の4つのコーナーのラーニングエリアや廊下と一体のオープンな図書館など、学びとコミュニケーションの場が点在しているつくりとなっています。

新校舎棟改修工事に際し施主様をはじめ設計事務所様の協力もいただきながら無事お引渡しをすることが出来ました。4月から使用される予定ですが、生徒・教職員・保護者の方たちに愛される校舎となることを願っています。

今後は4月から改修工事、10月から解体工事とまだ工事は1年半以上あります。施主様、設計事務所様とコミュニケーションをとりながら無事故で工事を終わられるよう努めていきます。

現場代理人:本保 邦朗/監理技術者:岡本 優二/担当技術者:志賀 裕介・前田 俊希・鈴木 大晟



建築

帯広大谷高等学校校舎 完成見学会を開催しました!!



●見学会の説明風景



●案内風景



令和6年1月17日(水)、「帯広大谷高等学校校舎」の完成を受けて社内見学会を開催し、役職員23名が参加いたしました。

見学会では、建築部工務課長 本保 邦朗現場代理人が工事概要を説明し、建物の構造や設備について紹介した後、3班に分かれて校舎内を案内しました。

校舎は「出会いと学びの環」をコンセプトとした楕円形をしており、1階が体育館を中心に職員室などが囲み、2階に教室、3階に機械室を配置した構造となっております。

案内の中で、「天井には石膏ボードを張る代わりに、軽量鉄骨材を等間隔に並べたルーバーを用いて仕上げた『ルーバー天井』を採用している。また、体育館の鉄骨組立の際には、建物内にクレーンを設置し、梁はキャンバー量の管理を行い施工した。」など特徴や設計技術についての説明がありました。

弊社は今後も建築物等の知識を深め、技術力の更なる向上と高品質な施工の確保に向けて、一層の努力を重ねてまいります。

📷 今月の表紙

撮影：萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

今月の表紙は、1月に引き続き、上士幌町の景色を熱気球から撮影したものです。撮影は先月の上士幌パルーンミーティングで行いました。手前にはブロッケン現象による「虹の輪」、奥にはナイタイ高原牧場が見える構図です。最高高度は約900mでした。熱気球の飛行は、ゴンドラ部分の組立から球皮の膨らませまで、複数人がチームを組んで行います。飛行中もチェイスカーが気球を追い、地上からのサポートや着陸後の回収作業を行います。このチームワークが熱気球の魅力の一つです。熱気球に乗る機会に恵まれてから約4年が経ちました。今年の冬は4回目のフライトでした。これを機に「空飛ぶ建築屋のおっさん」を名乗るのも面白いかもしれませんね。(笑)



HAGIWARA INTERNSHIP 開催中



マイナビ 2025

詳細・お申し込みは
当社ページより!!



2024年3月号 / HAGIWARA TIMES vol.82
萩原建設工業株式会社

バックナンバーは当社HPよりご覧ください。
〒080-0807
北海道帯広市東7条南8丁目2

<http://www.hagiwara-inc.co.jp/>
TEL.0155-24-3030

